

特集 新世代電源

高音質の基本
最新電源アイテムの使いこなし大研究

「理想の電源環境」作り方マニュアル!

電源アイテム・試聴編

電源システム
比較試聴

12モデル

●テスター
林 正儀 Masanori Hayashi

■テストのついで
郊外の一軒家にてテスト
実際の導入効果に近づけた

交流波形の頭がツブれていると、ピークが伸びなくなる。ノイズが乗っていると、サラついて透明度や音場感が失われてしまう。そんな体験はしばしばだが、さて、私としては初の、電源アイテム一斉テストだ。今回の12モデルには、注目の新製品も含まれており、一斉比較で実際に導入した際の電源アクセサリとしての効果や、サウンドパフォーマンスも気になるところだ。



試聴は神奈川の西に位置する我が家。ほぼ小田原といつてよく、フィールドテストの現場としては、比較的静かで電源環境はよい方だと思いが、だからこそサウンドの変化の微妙な差が重要だと思えるのだ。絶縁トランスやフィルター、電源システムといった方式の違いも含め、心して見極めたい。

■テストの方法と視点
ニアフィールドでセットし
プレイヤーで交換試聴した

テストの方法だが、壁コンからはアコースティック・リヴァイブの6口タップで取り(筆者のレファレンス)、そこから電源アイテム用の電源を取ることにした。試聴コンポネントは、効果が顕著に現れやすいソースプレイヤーがいい。

ここではSACDもかかるマラントのユニバーサル機DV-12 S2を使い、アンプはコープランドのCTA-401。スピーカーはハーベスの最新型2ウェイで、ワイドレンジ再生にも対応したHLコンパクト7ES-2を起用する。ついでながら電源のシビアなチェックゆえ、少しでもルームアコースティックの影響の少ないニアフィールドで行ったことをつけ加えておく。

結果のレポートはご覧のとおりである。音質傾向表は、その電源アイテムにつないだ時、音がウォームかクールか。ソフトかハードか……といった、ややアバウトだが感覚的なパロメータとして見てほしい。その内容については批評文をご覧いただき、また機能面や使いこなし的な部分についても、合わせて読

み取ってほしい。

■テストを終えて
想像を超える効果を実感
製品の選択幅も幅が広い

これが電源か、こんなに変わるものがあったか、という印象がまず第一である。「壁コン直」が一番クリーンだと信じている人は読者の中にはいないだろうか、まさにそのことが証明された。

本来の機能である汚れの浄化作用、すなわちノイズを低減してダムをクリーンにするという点で、この12モデルは全てに効果が認められた。その上で印象に残った製品について触れてみたい。

テクニカルブレインの2モデルは、やはり伝統の味というか、S/N、音の安定性の面で信頼がおけた。アンプメーカーから参入したPSオーディオやアキエフエースは、独特な音の精密感とともに、多様な機能面も奥深い印象だ(特に前者)。ハイエンド向けにはアクロリンクや、またトランススペアレントは1コンセントのパワーアイソレーターXLの潔さが電源マニアにはたまらない。異彩を放ったのがJ1のバッテリー駆動……というように多士済々である。

電源は古くて新しい。その方式も音調もさまざまだ。入門者向けから高級、ハイエンドまで、製品レンジも広がっている。ぜひ読者諸氏も目を向け、導入を検討してほしいものである。